流通・加工

鉄鋼新人・中堅社員教養講座

128人が業界基礎知識学ぶ

本紙共催

東京鉄鋼販売業連合会（東鉄連）と鉄鋼新聞社が共催する第53回鉄鋼新人・中堅社員教養講座（全国鉄鋼販売業連合会など協賛）が、先週6～7日の2日間で開催された。鋼材二次流通・加工業などに入社した新入社員や業界の中堅社員ら128人が受講。業界の商流や基礎知識を学んだ。

初日の6日は、千葉県浦安市の浦安鉄鋼会館で5つの講座が開かれた。はじめに、東鉄連の星野義春常務理事が「鉄鋼キーワードの解説」で製品の製造工程や鋼材流通業の商売で使用する業界専門用語などを解説した。

高炉メーカーからは、JFEスチールの石川逸弥専務が「業界の先輩として若き鉄鋼マンに贈る」とのテーマで講演した。日本鉄鋼業の歴史を解説した後、自身の体験談や新入社員らの参考になりそうな著名人の言葉などを引用。「自分たちの扱う製品の特徴や技術をしっかり勉強し、周りの人から『一緒に仕事をしてみたい』と思われるくらいの人材になってほしい」と受講者にアドバイスを贈った。

商社からは阪和興業の芹澤浩副社長が講演。「鉄鋼流通の現状と今後…先輩からのメッセージ」として「社会人と学生ではまったく違う土俵にいることを認識する必要がある。熱意・粘り、スピード・メリハリ、恻隠の情や潔さを中核とする武士道精神が大事。自分なりの価値観をしっかり持って、自分のできることを増やす努力をしてほしい」と呼びかけた。

鋼材二次流通からは山中シャフトセンターの山中潔社長が「自らの体験から語る仕事と人生」とのテーマで講演。自分の生い立ちや職歴を紹介しながら、自らの仕事観や社会人としての心構えを披露。「問題点の抽出、今置かれている立場などの確認、『なぜ』という理由を考え続けることが重要。仕事でもプライベートでも居心地よい場所を見つけられるよう、どこでも通用する自分なりの『看板』を用意しておこう」と語った。

一般教養講座では、プレジデントコミッティの宮本愼代表が「社会人としての身構え、気構え、心構え」、音楽家でM&Uスクール学長の梅谷忠洋氏が「リーダーたる者の極意」と題して講義を行った。

講演をする石川ＪＦＥＳ専務㊨と芹澤阪和興業副社長

山中シャフトセンター社長

２日目の製鉄所見学の参加者

JFES東日本千葉地区を見学

2日目は、JFESスチール東日本製鉄所千葉地区を訪問した。パス4台に分かれて高炉や原料ヤード、スラグを利用した緑地帯など所内を車内から視察。高炉では、タイミングよく出銑の様子を見ることができた。パスを降りてからは、第3連続鋳造設備のラインを見学した。所内の見学センターでは、DVD映像などを参考にしながら、製鉄所の概況や社内外活動、環境面での取組みなどの解説があり、製鉄・鋼材の基礎知識を学んだ。

その後千葉県庁舎に移動し、県議会の仕組みや県の概要・取組みなどの説明を受けた。19階の展望階からは千葉市内を視察。2日間の全日程を無事に終了した。

親睦ゴルフを開催した。60回の節目となった今回は18人が参加し、理事長杯取り切り戦に臨んだ＝写真。

CPSM会は、東日本一般缶工業協組と東京都鉱力地金商業協同組合、東京金属印刷工業協同組合、全国製缶機械工業協同組合の4団体について、構成するそれぞれの分野（CAN／STEEL／PRINT／MACHINE）を示す英語の頭文字にちなむ。相互の親睦と組合事業の進展を目的に毎年春と秋に開催している。

2月の溶接材料輸出

28%減の2100㌧

財務省の貿易統計によると、2月の溶接材料の輸出総量は、前年同月比28・6%減の2138㌧だった。主な内訳は、被覆アーク溶接棒が21・7%減の540㌧、フラックスなどサブマージ溶接用が44・5%減の505㌧、ソリッドワイヤやフラックス入りワイヤなどガスシールド用は21・5%減の1093㌧となった。

国別では、韓国132㌧（前年同月は132㌧）、中国455㌧（874㌧）、台湾117㌧（122㌧）、ノルウェー260㌧（231㌧）、ロシア360㌧（297㌧）、米国153㌧（408㌧）と前年同月を割り込む動きが相次いだ。

東日本一般缶工業協組

CPSM会が懇親ゴルフ

東日本一般缶工業協同組合（理事長・定村光寺島製缶工業社長）の組織組織で、製缶メーカーと金属印刷会社、ぷりき流通、機械メーカーで構成するCPSM会（委員長・小黒保満日進製缶社長）はこのほど、千葉県野田市の千葉カントリークラブ梅郷コースで毎春恒例の

鉄鋼月間市況

関西地区

3月

一般鋼材

後半は下げ足鈍化

鉄スクラップ、3千円値上がり

3月の関西地区鉄鋼月間市況は、前半は2月同様軟調に推移したが、スクラップの急反発により後半は下げ足が鈍化した。異形棒鋼は小幅ながら反発した。

異形棒鋼は、中旬までは弱含みに推移したが、スクラップの輸出価格の高値成約、これを受けた国内原料市況の急騰でメーカーが値上げを実施。3万円台の安値が解消し、下旬には1千円上伸し、直送ベース＝4万2千～3千円となった。

H形鋼は、原料市況の変化で後半にかけ安値警戒感が強まったが、スクラップの急反発により後半は下げ足が鈍化した。異形棒鋼は小幅ながら反発した。

相場は中旬に1千円下げ、ベース＝6万5千円となり、以降は弱横ばいに推移した。

等辺山形鋼もH形鋼同様、徐々に下げ足は鈍ったが、底値を固めきれずに終わった。相場は中旬に1千円下落し、ベース＝6万6千円となった。

その他の条鋼、建材品種も中旬に1千円下げ、平鋼がベース＝7万4千円、コラムがBCRベース＝8万3千円となった。

冷延薄板は弱含みで推移したが、値動きはなく、1・0×（3×6）＝7万4千円で横ばいだった。海外相場行きが不透明な中、他地区流通との競争が激しくなり、終始安値寄りに推移。相場はSC＝9万～9万5千円ながら8万円台の安値も多く見られた。

ニッケル系ステンレス薄板は、原料市況に底打ち観はあったが、需要が盛り上がり弱含みに推移が、スクラップの輸出